

私の視点

日本貿易振興会アジア経済研究所研究員

加藤 学



外務省と鈴木宗男議員の
もたれ合いを巡る疑惑騒動
は、外務省所管の巨大なO
DA（政府の途上国援助）
にからむ利権の隠れた構造
を暴露しつつある。ODA
は選挙の票につながらない
ので外務省には族議員がで
きにくい。この定説を裏切
り、鈴木議員は地元の北海
道に公共工事を呼び込むの
と同じ手法で外務省所管の
ODAを利用し、政治献金
と票を集めることに成功し

たようだ。地元の業者や政
治献金した業者に北方領土
やケニアでの施設建設工事
を優先的に請け負わせたこ
う疑惑は、外交手段とし
てのODA予算が伝統的な
土建国家的発想で利用され
ていた現状を知らしめた。
外務省に割り当てられて
いるODA予算は、02年度

省庁再編が盛んに論議さ
れた97年に、ODAを一元
的に執行するための国際協
力庁の設置案が経団連から
持ち上がった時も、外務省
は鈴木議員の尽力でその提
案をねじ伏せ、省庁再編を
無傷で乗り切ったという。

その結果、13省庁にODA
予算を振り分ける非効率な
行っている。こうした状況
派遣などの事業は外務省管
轄の国際協力事業団（JICA）だけでなく、経済産
業省、厚生労働省などがそ
れぞれ独自の特殊法人や財
団法人を設けて行っている
し、ODA関連の調査研究
機関も縦割り行政の中で複
数存在し、重複した業務を
行っている。こうした状況

縦割りによる数合わせと批
判された。円借款の実施機
関である海外経済協力基金
（OECF）と日本輸出入
銀行の統合、途上国研究機
関のアジア経済研究所と日
本貿易振興会との統合につ
いては、日本の援助政策の
向上という視点で論議した
場合、その賛否が分かれて

とも限らない。
鈴木議員の底意と呪縛か
ら外務省が逃れた今、外務
省をして本来の外交に専念
させるため、そしてODA
予算を効率的に運用し援助
政策の質的向上を促すため
にも、私たちは、ODA執
行機能を外務省から分離
し、各省庁に分配されたO
DA予算を二元的に管理す
る新しい機関の設立を再び
議論する必要がある。

◆ODA今こそ執行機関の一元化を

の一般会計予算で5389
億円。ODA予算総額の約
60%を占めている。前年度
に比べ全体では10・3%削
減されたにもかかわらず、
外務省予算はわずかに3・
2%削減されたにすぎなか
った。その裏には鈴木議員
の尽力があったと報道され
ている。

体制は何ら改善されること
なく温存された。ODA予
算は各省庁の分捕り合戦に
翻弄され、相変わらず全体
の調整がないまま、各省庁
のODA予算が似たような
事業につき込まれる状況が
続いている。

例えば、外国人のための
技能研修や海外への専門家
は、ODA予算の効率運用
を妨げるばかりか、総合的
な援助政策の立案・実施を
困難にしておき、援助の効
果自体を弱めかねない。

しかし、政府が一連の特
殊法人改革の中で行ってきたことは、ODAの質的向
上をめざした関連特殊法人
の整理統合ではなく、省庁

外務省を通じODAの利
権を利用してきたとみられ
る鈴木議員は、自民党対外
経済協力特別委員長を辞任
した。しかし、外務省の抜
本的な体質改善がないまま
巨大なODA利権を残して
いては、新しい族議員がい
つまたそこに巣を作らない
投稿規定 1300字程
度。住所、氏名、年齢、職
業、電話番号を明記し、〒
104-8011朝日新聞
社企画報道室「私の視点」
係へ。電子メールpsien
@ed.asahi.com 二重
投稿、採否の問い合わせは
ご遠慮下さい。本社電子メ
ディアにも収録します。原
稿は返却しません。